

ご存じですか？

「難聴も認知症の危険因子」です。

難聴になると認知症のリスクが高くなる一。そんなショッキングな報告が厚生労働省から発表されました。超高齢社会・日本に暮らす私たちにとって身近な問題「認知症と難聴」のこと、家族と一緒に考えてみませんか？



日本人の高齢者4人に1人が認知症

現在、日本の認知症患者は約462万人(2012年厚生労働省調べ)。高齢者の4人に1人は認知症、またその予備軍といわれています。団塊世代が後期高齢者となる2025年には、患者数が700万人を超えると見られています。

難聴は認知症の発症要因の一つ

2015年1月、政府は高齢化が急速に進む日本の問題に、認知症の対策強化に向けての国家戦略である新オレンジプラン(認知症施策推進総合戦略)を策定。認知症発症予防の推進と認知症高齢者

の日常生活を支える仕組みづくりに国をあげて取り組みはじめました。その中で認知症の危険因子として「加齢」や「高血圧」の他、「難聴」も一因として挙げられています。

新オレンジプランが提言する認知症を引き起こす要素(危険因子)

加齢	難聴	高血圧
遺伝		喫煙
頭部外傷		糖尿病

どうして難聴と認知症に関係があるの？

難聴が進行するにつれ、様々な影響を及ぼします。

難聴になると、周囲からの情報量が絶対的に減少します。その結果、他人の言っていることがよく聞きとれない、会話がうまく成立しない、という経験を繰り返し、周囲との関わりを避けるようになります。そして、だんだん社会との交流が減少し、精神的健康にも影響を与え、認知機能の低下をもたらすことがあります。

両親のことも心配になってきた...



聴覚障害による影響の広がり※1

音や声などの聴覚刺激が入らない

コミュニケーションが困難になる
危険の察知、周辺環境の把握がしづらくなる

心理的、情緒的影響
孤立、不安、憂うつ、意欲の減退、楽しみの制限

社会との交流、参加の減少

認知機能への影響



難聴になるとすぐに認知症になるわけではありません。難聴によりコミュニケーションが少なくなったり社会との関わりが減ったりすることで認知機能に影響が出る可能性があります。

※1 出典：(公財)テクノエイド協会「福祉用具シリーズ vol.19」

